面子維持行為に関する日中比較

—自己面子と他者面子の2次元をもとに—

○林萍萍¹・米谷淳²(会員)

(¹神戸大学大学院国際文化学研究科・²神戸大学大学教育推進機構)

Key words : face-maintenance, self-other's face, comparison between Japanese and Chinese

目 的

Oetzel & Ting-Toomey(2003)は中国や日本のような集団主義文化の国では、アメリカのような個人主義文化の国とは異なり、自分の面子だけでなく他者の面子を維持することも重視されると指摘している。面子維持意識の文化比較に関する研究は次に述べるものがある。Ting-Toomey(1991)は日中韓台米を比較した結果、日本人は中国人より高い自己面子維持の意識を、中国人は日本人より高い他者面子維持の意識をもっていることがわかった。Oetzel ら(2001)は中独日米を、Kim ら(2007)は中日韓を比較したところ、中国人が日本人より強い自己面子意識をもっていることを見出した。このように、中国人と日本人の自己面子意識と他者面子意識を比較した先行研究の結果は一致していない。

これまでの多文化比較研究の多くは、個人主義文化と集団主義文化を区別し、個々の研究目的にそって各研究者が独自に開発した尺度を用いてなされている。これらは、個人主義文化と集団主義文化の差を強調し、同じ文化圏に属している中国と日本の間に見られた文化差をあまり問題視してこなかった。本研究では、既存の尺度の項目を吟味し、日本文化的要素と中国文化的要素が反映される項目を追加して、自己面子維持意識と他者面子維持意識について質問紙調査により日中比較を行う。

方法

調査対象 日本人大学生 118 人(男 79 人、女 39 人、平均 19.3 歳・SD=0.8)と、中国人大学生 133 人(男 45 人、女 88 人、平均 21.8 歳・SD=3.9)

質問紙 Zane & Yeh(2002)が作成した面子維持尺度 20 項目(自己面子維持 10 項目;他者面子維持 10 項目)、Oetzel ら(2001)が作成した尺度 15 項目(自己面子維持 7 項目;他者面子維持 8 項目)、毛・大坊(2006a)で作成した中国人の社会的スキル尺度の「相手の面子」因子 18 項目計 53 項目に対して、5 段階で評定してもらった。また、関連尺度として、高木(2000)が作成した「相互独立的・相互協調的自己観尺度」20 項目について、5 段階で評定してもらった。

手続き 日本人と中国人の両方ともウェブ上で回答を求めた。どちらも匿名で行った。

結果・考察

自己観尺度について、日中とも先行研究と同じ 2 因子構造が得られ項目も一致している。面子維持行為尺度に関する 53 項目に対して、最尤法、パリマックス回転による探索的因子分析を行った。日中とも 2 因子が抽出され、第 1 因子が「他者面子維持」であり、第 2 因子が「自己面子維持」であった(両因子とも $\alpha > .80$)。一方、日中では各下位尺度に含まれる項目のうち 14 項目は因子配置が異なっている(表 1)。

項目	日本人	中国人
41.いつも人と協調するように心がける。	他者面子維持	自己面子維持
24.他の人と自分の争いを解決するために、第三者に助けてもらうことを好む。		
6.他の人と会う時、自分に対する期待を気にする。		
26.たとえ他の人が誤りであることが分かったときでも、その人を批判しないように気をつける。		
38.相手に遠慮する。	自己面子維持	他者面子維持
25.ある問題をディスカッションするとき、相手の人を自分が非難していないことを知らせるように努める。		
20.自分の頼み事が相手にとって迷惑だと思ふから、助けを求めることをためらう。		
19.あることにコメントする前に、自分が間違っているかもしれないと言う。		
49.謙虚に振舞うことで相手の気分をよくするように心がける。		
23.不公平に扱われたときでさえ、公に文句を言わない。		
47.謙遜でいることで相手との関係性を保つ。		
37.目上の人に常に敬意を表す言葉遣いをする。		
39.人のプライベートなどにあまり触れない。		
27.誰かが自分を当惑させたとき、それを忘れようと努める。		

また、両因子の日中間の共通項目を選択し、各下位尺度得点を求めて日中比較を行ったところ、中国人は日本人より自己面子維持意識と他者面子維持意識が有意に高かった。

表 1 因子配置が異なる項目

面子尺度の下位尺度と自己観の下位尺度の相関を求めたところ、日中とも「自己面子維持」と「他者面子維持」の間に高い相関が見られた。また、日中とも、「自己面子維持」と「他者面子維持」が「相互依存的自己」との間に正の相関が見られた(表 2)。

表 2 各下位尺度の相関

面子尺度	自己面子		他者面子	
自己観尺度	(他者面子を統制した)		(自己面子を統制した)	
相互独立的自己	.19 (日)	.12 (中)	.13 (日)	.13 (中)
相互依存的自己	.57 *(日)	.48 **(中)	.37 **(日)	.34 **(中)

本研究では、日本人と中国人は、自己面子維持の意識が強いほど、他者面子維持も強いこと、相互依存的自己観が強い人ほど、自己面子維持と他者面子維持の意識が強いことが示唆された。先行研究では、「自己面子維持」と「相互独立自己」、「他者面子維持」と「相互依存的自己」の間に相関があると報告されているが、本調査では「自己面子維持」と「相互独立的自己」の間に有意な相関が認められなかった。今後、日中間共通の負荷量の高い項目、有意差が顕著な項目を選出した上で、自由記述で得られた回答を加えて再調査を行う予定である。

引用文献(一部)

- Oetzel et al., 2001. Face and facework in conflict... Communication Monographs, 68(3), 235-258.
- Ting-Toomey et al., 1991. Culture, face maintenance, and styles of handling interpersonal conflict... International Journal of conflict management, 2(4), 275-296.
- Kim et al., 2007. Conflict management styles...International journal of conflict management, 18(1), 23-41.
- Zane & Yeh. 2002. The use of culturally-based variables in assessment: Studies on loss of face. In: Asian American mental health. Springer US, 123-138.
- (PingpingLIN, Kiyoshi MAIYA)